

みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL. 15 NO. 2

(通巻57号)

昭和63年 8月20日発行

編集・発行人 藤川 昶

〒260

千葉市中央港1丁目10番1号

☎0472-42-8311 (代表)



石井柏亭「エトルリア」

水彩 明治44年

明治43年12月から大正元年10月にかけて、柏亭は第一次の渡欧を行っている。初めてみるヨーロッパは柏亭の若い感性を強く刺激し、水彩画を中心とする優れた作品を生み出したのである。この作品は中部イタリアの都市、ペルージアの街を描いたもので、柏亭の自信作であったらしく、

著書『我が水彩』初版本の色刷口絵になっている。

『洋画講座(水彩)』の中の「風景画の技法」で、柏亭は「どういう風景を描くにしても私は構図を直さないのですむ場所を選ぶことにしています」と述べている。また柏亭は、「自然描写はないものをもってきて勝手に組み立てた絵ではならない」という。柏亭は明晰で鋭い感覚をもって構図

を定める。この作品も空と街並の割合、水平・垂直・斜めの線のバランスなど良く配慮されている。

風景画では、空と水が重要な部分を占めていることが多い」といい、透明な絵具を使うことをすすめている。ペルージアの天気、空は明るく清澄である。

中央やや下に帽子をかぶった黒い人物が描かれ、平明な画面の単調さが救われる。

点景人物が必要な場所に依じて敏速に人物の形をとらえて建物との比例を見て描いていくことが必要」で、「日常のデッサンの勉強というところがここでものをいう。」

柏亭は、素描家「Draughtsman」は生まれつきのものであるといい、素描家としての誇りを持っていた。

簡潔で明快な画面構成と、軽快な筆致によるみずみずしい描写は、素描家としての素質と明晰で均衡のとれた感性から生みだされるといえる。それは、この第一回目のヨーロッパ旅行で確立されたといわれるのである。そして、晩年まで失なわれることはなかった。

みる
(展覧会)

特別展

石井柏亭と近代絵画の歩み

'88・9・10(土)〜10・16(日)



石井柏亭「舟に居る人」



石井柏亭「サン・ミッシェル橋」



石井柏亭「外套を被たる婦人」

本年度第二回目の特別展として「石井柏亭と近代絵画の歩み」を開催します。石井柏亭は、浅井忠に洋画を学び、また、しばしば本県に足跡を残すなど、本県にゆかりの深い重要な画家でもあります。本展覧会では、柏亭の代表的な作品を展覧し、その軌跡を回顧すると共に、関係の深い画家の作品も併せて展覧し、日本近代絵画の展開に解れようとするものです。

石井柏亭(本名満吉)は、明治十五年三月二十八日に父石井鼎湖、母ふじの長男として東京府下谷区仲御徒町に生まれました。鼎湖は日本画はもとより、石版画等の洋風表現を身につけた画家で、祖父の船橋出身の鈴木鷺湖も日本画家として活躍した人でした。このような環境は、画家としての柏亭を育む礎ともなりました。柏亭は幼い頃から草紙類の模写を盛んに試み、十歳の時から日本美術協会や青年絵画共進会に日本画を出品するなど早くもその才を発揮しています。明治二十九年の十三歳の時、大蔵省印刷局工生として彫版見習生となり彫版を行うと同時に、先に入っていた石川欽一郎などが暇をみ



石井柏亭(明治15〜昭和33)

の時から日本美術協会や青年絵画共進会に日本画を出品するなど早くもその才を発揮しています。明治二十九年の十三歳の時、大蔵省印刷局工生として彫版見習生となり彫版を行うと同時に、先に入っていた石川欽一郎などが暇をみと述べているように、浅井との出会いは、後の柏亭の芸術飛躍の大きな要因となりました。この頃から、浅井が同志と結成した日本最初の洋画団体である明治美術会にも出品。明治三十三年の浅井渡欧後は、中村不折の指導を受ける一方、新日本画に興味を持ち、結城素明、平福百穂等の无声会に参加して日本画を発表したほか、印刷局の同僚達と洋画研究の小団、紫瀾会を組織し、月次の研究会を行うなど、幅広い制作活動を行いました。明治三十五年からは明治美術会を一新して発足した太平洋洋画会に出品。明治三十七年には東京美術学校に入学して黒田清輝、藤島武二の指導を受けて洋画研究に励みますが、眼病のため止むを得ず一ヶ年で退学。しかし、この後も制作意欲は旺盛であるばかりか、その他の文芸活動にも強い関心を示しました。明治三十五年に雑誌「明星」の挿絵をはじめとして種々の雑誌に挿絵、時評、詩などを発表したのに加え、明治四十年、雑誌「方寸」を山本鼎、森田恒友と三人で発行し、明治四十四年に廃刊となるまで、美術普及に大きな役割を果たしました。この雑誌は、文学と美術との交流を目指しましたが、特に、画家の自画自刻による多くの版画を掲載したことに大きな特色があり、日本の版画運動の先駆と言うべき意義を持ちました。柏亭は、明治四十年以降は文展にも出品。また最初の渡欧を明治四十三年から大正元年にわたって行い、ヨーロッパ各地やエジプト等を巡歴し、多数の制作をしています。さらに、帰国後まもなく大正二年には赤城泰舒、水野以文、後藤工志等と水彩画家の総合団体である日本水彩画会を創立し、翌三年、有島生馬、山下新太郎、湯浅一郎等と二科会を創立して作品を発表すると共に、その運営の中心となって活躍しました。



安井曾太郎「女立像」



山下新太郎「供物」



石井柏亭「山河在」

二科会は、まだ一般に認知されていない新進流派の画家を包容し、以後、日本絵画の展開に少なからず影響を与えました。昭和十年、帝国美術院の改組に際して会員となった柏亭は、二科会を離れて翌十一年には有島生馬、安井曾太郎、山下新太郎、小山敬三等と一水会を創立し、同会の主力として活躍。戦後は、日展の常務理事としてその運営にも携わるなど、柏亭は、日本の近代絵画の発展に大きく寄与し、確固たる地位を築きました。柏亭は、単に作品制作だけでなく、多数の優れた画論、評論を表わし、また文化学院の創立をはじめ、美術団体はもとより、東京大学、新潟大学等講師をつとめるなど、教育、著述の面でも際だった功績を残しています。柏亭は、昭和三十三年十二月二十九日に七十六歳で逝去。葬儀は翌年の一月八日、青山葬儀所において一水会葬として行われました。

「画室内での想像画は不適當で、自然に面と向かって動かしたのでなければ味わいのある筆は出ない。」と述べているように、直接自然と接して画面を形成することを基本とした。実際、画面は、的確な対象の把握と緊密な構成がなされ、対象の存在感を見事に表出させています。

本展覧会は、石井柏亭の油彩、水彩、版画、日本画等九十余点のほか、祖父の鈴木鷺湖、父の石井鼎湖、弟の鶴三をはじめ、師、あるいは、太平洋画会、日本水彩画会、二科会、一水会等の団体で関係のあった画家の作品を含めて総計三十八名の画家による一六〇余点の作品を内容としています。ぜひこの機会に多くの方々に御高覧賜りたいと思います。

出品画家

石井柏亭、鈴木鷺湖、石井鼎湖、浅井忠、中村不折、藤島武二、湯浅一郎、大下藤次郎、石川欽一郎、都鳥英喜、鹿子木孟郎、三宅克己、平福百穂、津田青楓、森田恒友、倉田白羊、小杉未醒、山下新太郎、山本鼎、坂本繁二郎、有島生馬、正宗得三郎、池部鈞、黒田重太郎、石井鶴三、

安井曾太郎、赤城泰舒、水野以文、中川紀元、後藤工志、木下孝則、鈴木信太郎、小山敬三、木下義謙、中村善策、田坂乾、松村三冬、田坂ゆたか

□ 会期
昭和六十三年九月十日(土)～十月十六日(日) 午前九時～午後四時三十分(入場は四時まで) 月曜日休館(十月十日は開館、翌日休館)

□ 入場料
一般五百円(三百円)、高・大学生三百円(二百円)、小・中学生二百円(七十円)
(一)は二十名以上の団体料金

美術講演会
日時 九月十七日(土)午後二時
演題 「石井柏亭と近代美術」
講師 匠秀夫氏(茨城県近代美術館長)
会場 講堂(入場無料)

美術を語る会
日時 九月二十四日(土)午後二時
話題 「石井柏亭を語る」
話題提供者 田坂乾氏(洋画家・一水会常任委員)
会場 研修室(入場無料)

特別展

「デュフィ展」を終えて

5月14日から6月19日まで開催した本展は、デュフィの20歳の初期作品から75歳でなくなる数日前の絶筆まで104点を油彩、水彩、デッサン等をそれぞれ制作年代順を基本に展覧した。画学生の頃の自然主義的な作品から、印象派、フォービズム、キュビズムとめまぐるしく変化する画風の変遷を紹介し、やがてデュフィ独特の画風を形成しする様子展示構成した。

会場は、豊かな色彩と線のリズムに溢れ、ワトロー、フラゴナル、ルノワールと共に「生きる喜びの画家」と称されるデュフィの自由な息吹を満喫する鑑賞者の姿をあちこちらでみかけた。



デュフィ展会場

特別公開

ジャン・フランソワ・ミレー

(二八一四、一八七五)

「垣根に沿って草を食む羊」

ミレーのこの作品は去る7月19日より公開され、引き続き展覧します。ミレー円熟の46歳ごろの作品です。

のどかな田園の澄んだ空気と温かい地熱までが伝わってくるようです。



第3回現代日本具象彫刻展作品公募始まる

千葉市青葉町に建設中の「青葉の森公園」は、すでに野球場が

第三回 現代日本具象彫刻展 作品募集要項

月4日(日)までの毎日10時から16時までの間に千葉県立美術館まで搬入してください。(運送業者にによる搬入も12月4日(日)必着、時間厳守)

員会事務局
〒260千葉市中央港一〇一
千葉県立美術館学芸課気付
(電話)
〇四七二(42)八三二一

昨年オーブンし、県立中央博物館をめぐらすなど、施設の充実が着々と進んでおり、「彫刻の広場」の工事も順調に行われています。

この「彫刻の広場」に設置する優れた具象彫刻を選定するため、昭和60年2月に第一回現代日本具象彫刻展が、また昭和62年8月には第二回展が開催され、招待作品及び一部の大賞作品が同広場に設置されることとなりました。

第三回展は次の作品募集要項により具象彫刻作品が全国公募されます。ふりつて、御出品ください。

青葉の森公園は千葉市の農林水産省畜産試験場跡地につくられるもので面積約53ヘクタール、下総台地の面影を残す典型的な地形で、樹林帯も豊かで、ムクドリ、キジなどが生息する、都市部に残された極めて貴重な自然です。

主催

千葉県・千葉県教育委員会

運営

現代日本具象彫刻展実行委員会

展示会期

昭和64年2月4日(土)～2月26日(日)(20日間)

審査員

小川正隆、嘉門安雄、弦田平八郎、富山秀男、中村傳三郎、本間正義、三木多聞(敬称略、五十音順)

会場

千葉県立美術館

大賞6点以内(副賞各70万円)

テーマ

「21世紀への飛躍」

入選 点数未定

出品規定

1、応募資格

出身県、経歴、年令を問いません。

2、応募作品

(1)具象的な野外彫刻のためのエスキースで、昭和62年8月以降の制作による未発表の作品。

3、搬入

(1)昭和63年12月3日(土)～12月4日(日)までの毎日10時から16時までの間に千葉県立美術館まで搬入してください。(運送業者にによる搬入も12月4日(日)必着、時間厳守)

4、出品点数

重さ2t以内
重さ2t以内
重さ2t以内

5、審査結果

昭和64年1月9日(月)10時に千葉県立美術館に掲示します。応募者にはハガキで通知します。

6、作品展示

招待作品、入賞作品及び入選作品を展示します。

7、お問い合わせ先

現代日本具象彫刻展実行委員会事務局

8、その他

この公園は市民のレクリエーションの場、文化活動の拠点、防災の場として利用される予定です。

9、その他

そのなかの「彫刻の広場」には誰もが親しめる具象彫刻が置かれ、芸術の香り高い憩いの広場づくりが進められております。現代日本具象彫刻界における代表的作家の作品約10体、さらに「現代日本具象彫刻展」により選考される大賞作約10体、計20体程度がこの広場に設置される予定です。これまでに制作された14点(招待作8点、大賞作6点)は、千葉県立美術館に仮設置され、一般公開中です。

10、その他

青葉の森公園と彫刻の広場

11、その他

お問い合わせ先
現代日本具象彫刻展実行委

美術講演会

「美術講演会」は、特別展にちなんで、毎回、開催されているが、第一回美術講演会が、6月4日に開催された。

「デュファイ展」にちなんで、美術評論家の千足伸行氏を迎え、「デュファイ・人と芸術―色彩とイメージの華やぎ―」をテーマに、盛況であった。

千足氏は、デュファイの作品には、一日の疲れを癒やす安らぎを表現しようとしたマチスに通じる幸福感があり、人間の醜の部分を描いたピカソとは対峙する部分をもつことなど多くの興味深い話をされた。

第二回は、特別展「石井柏亭と近代絵画の歩み」(前掲)にちなんで、茨城県近代美術館長の匠秀夫氏を迎え、「石井柏亭と近代美術」をテーマに開催する。日時は9月17日の午後2時から本館講堂において、参加費無料。

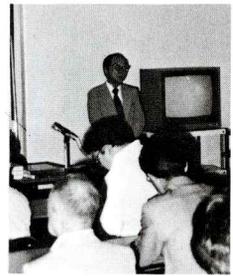
美術を語る会

「美術を語る会」は、話題提供者である作家(或いは作家をよく知る人)や評論家などの方と50人程の参加者として語り合うことに意義がある。

話してみたかった話題提供者に、技法や画材、作家や作品等についての日頃の悩みや疑問を語り、それについて話題提供者と参加者全員で考える有意義な機会を得る場である。

今年度は、既に3回の語る会を実施した。第一回は、5月28日に彫刻家の堀豊之氏を迎え、「私と彫刻」というテーマで開催した。文化における彫刻の位置、彫刻と他の芸術である音楽、文芸との関係などについて話はずんだ。

第二回は6月18日に、洋画家の根岸茂行氏を迎え、特別展「デュファイ展」にちなみ、「デュファイ」知性と感性のあざやかな結合」と題して開催した。根岸氏は、デュファイと同じ洋画家としての立場から、デュファイの作品の持つ即興性は、デッサンからも塗りの上からも計算し尽くされたものであることを解いた。



第三回は7月9日に、日本画家の齊藤惇氏を迎え、「院展の作家たち」というテーマで開催した。院展のビデオを鑑賞しながら、各作家の特徴や日本画の特色について、材料・形式の両面から語り合った。

第四回 8月27日(土) 話題「わたしと金工」 金工家 鈴木治平氏
第五回 9月3日(土) 話題「作画のはなし」構想を練る「から作画まで」 洋画家 天野三郎氏

第六回 9月24日(土)(前掲) 話題「石井柏亭を語る」 話題提供者 一水会常任委員 田坂乾氏

※各回とも対象は一般50人。午後2時開催。参加費無料。

ごあんない・団体展

- 第16回水彩連盟千葉支部展 8月23日～8月28日
- 第66回習美会初夏大作展 8月23日～8月28日
- 第5回千葉中美展 8月30日～9月4日
- 第22回漱雲会全国書道展 9月6日～9月11日
- 第8回千葉サンケイ現代洋画展 9月6日～9月11日
- 第17回写真千葉県展 9月13日～9月18日
- 日本水彩画会第4回千葉県支部展 9月13日～9月18日
- 第34回静雅書道会小中学校千葉地区展 9月13日～9月18日
- 第9回龍峽書道会 9月20日～9月25日
- 千葉県人展 9月20日～9月25日
- 第12回尺墨会書作展 9月20日～9月25日
- 第18回いてふ会彫刻展 9月20日～9月25日
- 昭和63年度第16回千葉市教職員美術展覧会 9月27日～10月2日
- 昭和63年度第31回千葉市小中養護学校児童生徒作品総合展覧会 10月4日～10月10日
- 第21回千葉県高等学校合同写真展 10月4日～10月10日
- 第8回日本春秋書院千葉県書道連盟展 8月23日～8月28日
- 第6回日中友好書道展覧会 8月30日～9月4日
- 第13回葉美会展 9月6日～9月11日
- 第18回新構造千葉支部展 9月6日～9月11日
- 千葉等迦展 9月13日～9月18日
- 第4回日本書道学会千葉県連展 9月13日～9月18日
- 昭和63年度千葉県芸術祭第11回千葉県写真展 9月13日～9月25日
- 第38回千葉デザイン展 9月20日～9月25日
- 第35回千葉県勤労者美術展 9月20日～9月25日
- 第26回新世纪美術協会千葉支部展 9月20日～9月25日
- 昭和63年度第31回千葉市小中養護学校児童生徒作品総合展覧会 9月27日～10月2日
- 第14回秋耕会千葉支部展 10月4日～10月10日
- 第15回文化書道千葉県連合会公募展覧会 10月4日～10月10日

美術館実技講座

●書芸講座(2)〈かな〉
 期日 9月27・28・29・30日
 講師 高木東扇氏
 定員 25名
 締切 9月13日
 〈4日間〉



実技講座会場

●陶芸講座(2)
 期日 10月25・27日
 11月11・16・18日
 12月13・14・16日
 1月12・27日
 〈10日間〉

●洋画講座(3)
 期日 11月8・9・10・11・16・17・18・19・22・23・24・25日
 〈12日間〉

●版画入門講座
 期日 11月22・23・24・26・27・29・30日
 講師 牛玖健治氏
 定員 30名
 締切 11月8日
 〈7日間〉

●書芸講座(3)

期日 12月1・2・8・9日
 講師 浅見錦龍氏
 定員 25名
 締切 11月17日

友の会実技講座

●彫塑入門講座
 期日 9月13・14・15・20・21・22・23日
 講師 鈴木徹氏
 定員 20名
 締切 8月30日
 〈7日間〉

●洋画入門講座(2)
 期日 10月29・30日
 11月2・3・5・6日
 〈6日間〉

●てん刻入門講座
 期日 11月4・5・6日
 講師 鈴木知秋氏
 定員 30名
 締切 10月21日
 〈3日間〉

ごあんない・実技講座



実技講座会場

時間 美術館講座 12時30分〜4時30分
 友の会講座 10時〜4時
 申し込み 各講座とも往復はがきに、希望講座名・住所・氏名・電話番号・年令を明記のうえ、美術館普及班(友の会講座は友の会事務局)まで。
 なお、定員を越えた場合は抽選となります。
 ※都合により日程を変更する場合があります。

美術館研究員会議

6月17日、今年度、第一回の研究員会議が行われた。今年度の研究員には、石倉総子、大須賀久大、加曾利和夫、高木正、高村照夫、田邊宏、平戸美和子、南隆一、村田哲郎、綿貫啓一の10氏が決定した。

今年度は、8月末まで、現在進行中の浅井忠研究資料の解説を行い、その後は、次回の会議までに、館の普及活動について、当館から、幾つかの課題をお願いし、それについての調査意見を頂くこととなった。

情報資料室から

今年度最初の購入図書が入荷しました。御利用ください。
 〈画集・作品集〉日本画の遺産・印象派・ブリュッセル全作品集・日本のガラス・陶芸の絵紋様・ナザレの少年ほか
 〈事典類〉画題事典・絵画鑑識事典・現代陶芸作家事典ほか。

日誌抄

5・14 特別展「デュフィ展」(6・19まで)
 5・15 ニース美術館総局長フルネ氏来館

美術館協議会

今年度の第一回目の協議会が7月28日に開催された。当館協議会委員には、池部知之、戸田禎佑、国松実枝子、郡司幹雄、鈴木民三、野口貞子、遠藤健郎、柴田敏夫、富山秀男、長谷川昂の10氏が決定し、これから2年間当館の運営に御協力頂くこととなった。

今回の会議では、当館の収集方針や展示室・収蔵庫の増築、ミレーの作品購入などに関して、また企画展・団体展の在り方について等、2時間にわたり、協議が行われた。

7・28 第一回美術館協議会

7・9 第三回美術を語る会(話題提供者・斎藤惇氏)

7・18 第二回美術を語る会(話題提供者・根岸茂行氏)

6・17 第一回美術館研究員会議

6・4 第一回美術講演会(講師 手足伸行氏)

5・28 第一回美術を語る会(話題提供者 堀豊之氏)

5・17 第一回美術館研究員会議

5・14 特別展「デュフィ展」(6・19まで)

5・15 ニース美術館総局長フルネ氏来館

5・28 第一回美術を語る会(話題提供者 堀豊之氏)

6・4 第一回美術講演会(講師 手足伸行氏)

6・17 第一回美術館研究員会議

6・18 第二回美術を語る会(話題提供者 根岸茂行氏)

7・9 第三回美術を語る会(話題提供者 斎藤惇氏)

7・28 第一回美術館協議会